

■ 閉塞性動脈硬化症の治験募集中 血管再生治療へ期待

“足の傷がなかなか治らない”“じっとしていても足が痛い”など、閉塞性動脈硬化症による「重症下肢虚血」で困っている方もいることと思います。
そのような方を対象とした「血管再生治療」の治験が始まっています。

「重症下肢虚血」とは、動脈硬化などで血液の循環が悪くなり、足の先に酸素や栄養素が送られなくなる血行障害の一つ。安静時に強い痛みが生じたり、足に潰瘍や壊死が生じます。症状が進行すると、下肢の部分的切断または全切断が必要となることがあります。

この治験では、ご自身の血液中から分離した「CD34 陽性細胞」を用いて治験製品を作り、血管が閉塞して血行が悪くなっている部分に移植する治療を行います。

幹細胞「CD34 陽性細胞」とは、骨髄や血液中に存在する未分化な細胞（幹細胞）で、血管の閉塞した臓器や組織に移植されると、血管を形成する細胞になる可能性があると考えられています。

治験には、参加基準があるため、治験への参加を検討・希望される場合は、まずはかかりつけ医にご相談され、参加基準にあてはまるかをご確認ください。当治験に関する詳細情報は次のとおりです。



問い合わせ先：シミックヘルスケア・インスティテュート株式会社

TEL：0120-103-853（平日 9:00～17:00）

ホームページ：<https://www2.tri-kobe.org/clbs12/>

■ 後期高齢者医療の窓口負担 2割へ引き上げる議論が本格化 12月中に決定をめざす

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で議論が止まっていた、75歳以上（透析患者など一部の障害者は65歳以上）の後期高齢者が医療機関で支払う窓口負担について、原則1割から2割負担へ引き上げる議論が本格的にはじまりました。

厚生労働省は12日に社会保障審議会の医療保険部会を開き、すでに3割負担となっている「現役なみ所得」と「低所得」者を除いた全体の52%にあたる「一般」所得者を「2割負担」とする議論を行いました。

全国には、65歳を過ぎてから透析を始め、年齢制限のために自治体の障害者医療費助成が利用できないため、透析以外の医療費が窓口1割負担という方もいます。整形や皮膚科、眼科など、複数の疾患または合併症により、複数の医療機関を受診しなければならない透析患者は少なくありません。2割負担は大きな負担増となります。

同日の部会では、日本医師会や日本看護協会から「受診控えや医療の中断につながる」などの意見が出されました。

政府は一定所得以上の人を2割に引き上げる方針で、年内にも結論をまとめる見通しです。

（参考：<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000693626.pdf>）